



# TRIO ESTRANGEIROS

FEAT. VINICIUS CANTUARIA,  
JESSE HARRIS & DADI  
TOUR IN JAPAN 2013

5/26 YOKOHAMA - 5/27 NAGOYA - 5/29 HIROSHIMA  
5/30 UEDA - 5/31 KYOTO - 6/3 SHIBUYA

トリオ・エストランジェイロス。  
訳すと「異邦人トリオ」。  
ヴィニシウス・カントウアリア、ダヂ、  
そしてジェシー・ハリス。  
ふたりのブラジル人とひとりのニュー Yorker。  
日本限定のスペシャルユニット!!

## サウダージは「友」のなかに

トリオ・エストランジェイロス。訳すと「異邦人トリオ」。ふたりのブラジル人とひとりのニューヨーカー。ヴィニシウス・カントウアリア、ダヂ、そしてジェシー・ハリス。ふたりのブラジル人が知り合ったのは75年のことだそうだが、3人揃って親交を結ぶようになったのは2011年。さほど古い話ではない。

ジェシーはノラ・ジョーンズのブラジルツアーで、ダヂの知己を得、ダヂを介してヴィニシウスと友人となる。ほどなくジェシーは、自身のアルバム「サブ・ローサ」をリオで録音し、ダヂ、ヴィニシウスの双方を制作に招き入れ、そのお返しとばかりにヴィニシウスは最新作「アパート暮らしのインヂオ」でジェシーと共作・共演を果たす。よほどウマがあったのだろう、急接近ともいえるべき親密ぶりだ。

リオとニューヨーク。その往還のなかで育まれた友情の結晶として、この「トリオ・エストランジェイロス」は生まれた。ジェシーの「サブローサ」、ヴィニシウスの「アパート暮らしのインヂオ」は、ともに「異邦人」として異国で音楽をつくること自体をテーマとした作品といえる。そこでふたりはそれぞれのやり方で、異国の地で感じるよるべなさや郷愁を、さらには母国というもののしげみや鬱陶しさから逃れた、いつぞやの満ちた晴れがましさを表現した。ふたつのアルバムは、なるほど、まるでリオとニューヨークを合わせ鏡にしたかのように響きあう。

ブラジル音楽好きならお察しの通り「エストランジェイロ」と言って真っ先に思い浮かぶのは、カエターノ・ヴェローゾの89年のアルバムだ。アート・リンゼイ、ピーター・シェラーをはじめとするニューヨークのミュージシャンたちとともに、カエターノは、摩天楼のエキセントリックな喧噪を異邦人の耳

で切り取った。さらに遭えば、ロンドンでの亡命時代に彼が残した作品を思い起こすこともできる。そこには悲哀、鬱屈に沈む「エストランジェイロ」の痛ましい姿があった。理不尽な政治の力が暗い影となって彼を覆っていた。

比べれば、21世紀の「エストランジェイロ」たちは、おそらくもっと身軽だ。ブラジルとニューヨークの往還は、カエターノの「エストランジェイロ」以降もっと緊密なものとなり、ミュージシャン同士の交流も活発だ。ノラ・ジョーンズがヴィニシウスのアルバムに、坂本龍一やビル・フリゼールと並んで参加する。もっとカジュアルで、フレンドリーな交歓がそこにはある。

「トリオ・エストランジェイロス」には、だから、かつてカエターノが生きなければならなかった異国での苦しみや痛みはないかもしれない。今回の日本公演で彼らに何かカヴァー曲を披露してくれるようお願いしたところ、真っ先に帰ってきたのは、ジョルジュ・ベンの「Umbabarama」だったそうだ。

それでもやっぱり、その音楽からは「サウダージ」が溢れてやまないはずだ。ジェシーとダヂが、その言葉に面白い定義を与えている。

「大事な人がそばにいてくれたらいいのに、と想う心」(ジェシー)  
「誰かの存在を感じるのに、その人がいないとき」(ダヂ)

サウダージは「故郷」に対して抱くものではあるにせよ、それはもはや「国」や「地域」を意味しない。サウダージは「友」のなかに感じるものだ、と彼らは言う。友がいる場所。そここそが、エストランジェイロスにとってのただひとつの「故郷」なのだ。

text by 若林 恵

# TRIO ESTRANGEIROS FEAT. VINICIUS CANTUARIA, JESSE HARRIS & DADI TOUR IN JAPAN 2013

5/26 (日) 横浜 THUMBS UP

Open 19:00 Start 20:00  
横浜サムズアップ 045-314-8705

5/27 (月) 名古屋 CLUB QUATTRO

Open 18:30 Start 19:30  
名古屋クラブクアトロ 052-264-8211

5/29 (水) 広島 CLUB QUATTRO

Open 18:30 Start 19:30  
広島クラブクアトロ 082-542-2280

5/30 (木) 梅田 CLUB QUATTRO

Open 18:30 Start 19:30  
梅田クラブクアトロ 06-6311-8111

5/31 (金) 京都 磔磔

Open 18:00 Start 19:00  
磔磔 075-351-1321

6/03 (月) 渋谷 duo MUSIC EXCHANGE

Open 19:00 Start 20:00  
duo MUSIC EXCHANGE 03-5459-8716

前売 ¥6,000(税込) 整理番号付・全自由

入場時にドリンク代として別途500円が必要となります。但し、磔磔は600円、サムズアップは着席後、オーダーが必要となります。



HILLSTONE

www.hillstone.jp

## Vinicius Cantuaria / ヴィニシウス・カントウアリア 詩的な静寂と繊細な美意識

ブラジル北部バレン生まれ。70年代にはカエターノ・ヴェローゾのバック・メンバーとして活躍。カエターノのヒット曲「ル・アイ・エストレーラ」はヴィニシウスの作。NYに移住後はコンスタントにソロ作を発表し、そのエレクトロやアンビエントなテクスチャーを取り入れた作風が高く評価されている。ビル・フリゼール等、多くのアーティストとのコラボレーションも盛んに行っている。  
vinicius.com



## Jesse Harris / ジェシー・ハリス 稀代の天才ソングライター

ノラ・ジョーンズの影の立役者で、彼女の大ヒット曲「Don't Know Why」の生みの親としても知られるグラミー受賞のシンガー・ソングライター。いまやNYアコースティック・シーンの代表的存在でもある。フォークやカントリーといったルーツ・ミュージックの匂いを残しつつ、ニューヨーカーならではの先進性を兼ね備えたサウンドが魅力。  
jesseharrismusic.com ・ jesseharris.jp

## Dadi / ダヂ MPBポップ・サイドの生き証人

リオ在住のベーシスト、シンガー・ソングライター、音楽プロデューサー。13才からベースを弾き始めた早熟の彼に、カエターノは「独学のダヂ」と賛辞を贈る。ノヴァス・バイアーンズのベーシストとしてキャリアをスタートし、ジョルジュ・ベンのバンドにも在籍して重要作のほとんどに参加。現在はカエターノ・ヴェローゾやマリザ・モンチのベーシスト/プロデューサーとして活躍している。ソロ名義ではこれまでに3枚のアルバムをリリース。  
inventar-rio.com ・ myspace.com/dadicarvalho ・ dadi.com.br



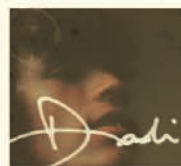
「アパート暮らしのインヂオ」  
ヴィニシウス・カントウアリア  
SONG X JAZZ 2012

訥々と綴られる異国の物語  
幽玄な世界観が印象的な一枚。  
ノラ・ジョーンズや坂本龍一、ジェシー・ハリスなどのNY人脈をゲストに起用したアクセントが効いている。



「ボーン・アウェイ」  
ジェシー・ハリス  
HILLSTONE 2013

シンプルで飾らない美しさ  
スタジオに一人こもり全編を録りあげた内省的な一枚。頑なまでにシンプルなサウンドとソングライティングにこだわった作品。



「Dadi」  
ダヂ  
Inpartmait 2005

記念すべき1stソロアルバム  
70年代の色彩感と2000年代の空気感が溶け合った作品。カエターノ・ヴェローゾ、マリザ・モンチらがゲスト参加